

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成27年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で・・・」を理念に挙げているように施設と地域との交流を大切に力を入れている。毎年実施している「夕涼み会」は、はや12年がたち定着し、大勢の来客がきて参加してくださっており、地区の自治会、婦人会のボランティアのお手伝いもしていただき、毎年、施行を凝らし地域の方々とすてきな交流の場になるようにしている。また秋の「地方祭」には近隣、隣地区(ご利用者様のご家族)の地域のお神輿やだんじりが時間帯を合わせて集結し訪問にきてくださいます。ご利用者様と一緒に、日頃の感謝を表す場となっております。地域の公民館活動にも参加させて頂いており、映画鑑賞会、市民運動会、文化祭には、ご利用者様の1年間の作品作りの発表が出来る場を提供していただき、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流を深めております。12年たちご利用者様も高齢化している中、ご家族にも協力を頂き共に地域の中で安心して暮らせていけるように出来ることから一つひとつ取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問すると笑顔で管理者が玄関先で迎え入れてくれた。何故か懐かしい気持ちになったのは、管理者の後ろに大根を干しているのが目に入ったからだった。洋風の外観なのだが、昔の生活がそのまま残っているようで親しみを感じる事業所である。管理者は介護の基本に「その人を見る」という考え方を据えている。ともすると認知症の専門知識が利用者を理解したつもりになせ、認知症を見て人を見ないことを危惧するからである。また、事業所では栄養は口から摂取する、専門性の高い医療的ケアは行わない等福祉施設としてケアの範囲を規定している。ここにも可能なこと、難しいこと、専門機関に移行することの分けをはっきりさせ、できることは精一杯行うという専門性の高さがある。事業所での生活基準は、利用者や家族等が入居を希望した段階で話し合いをしており、安心できる生活を提供したいという気持ちを感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) ユニット I

記入者(管理者)

氏 名 佐伯美恵子

評価完了日

平成27年11月1日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、地域の方と接する機会を大切に、ことあるごとにカンファレンスを行い話し合いの場を持ち、理念の意義を意識するように心がけ、話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、同じ方向にむけるよう、共有（和）を計れるよう、日々実践につなげていくよう心掛け努めている。 (外部評価) 管理者との話の中に、「気が付いたら利用者が近所の人と立ち話をしていた」「事業所の庭で近くのおばあちゃんが草をむしっていたので家のお嫁さんに連絡をした」等、利用者と近所の高齢者が日常的に交流している様子が伺える。これは、理念にある「地域と共に」を日々実践し、それが利用者だけでなく地域住民にも安心感をもたらせている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として、地域の行事や小中学校の運動会（施設専用にテントを建てる場所を設けていただいている）お祭り、文化祭（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、児童生徒を守り育てる会、震災訓練など、地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の生活に組み入れ、交流に努めている。 (外部評価) 中庭に続く玄関先に切干大根が干してあった。農家の庭先の風情であり、事業所の周りの家にもたくさん見られる光景だそう。地域の風物詩を事業所でも取り入れている状態が自然で、「ご近所の方から伝授頂いた」と話す管理者は、地縁を重んじていることが分かる。事業所が土地の色に馴染んでいることから、地域との付き合いの深さが感じられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々との交流の中で、施設での役割、認知症の方の施設という認識を伝えていくと共に、施設の利用開放などを行っている。地域の清掃活動にもご利用者と参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開催し、その都度テーマを設定 し、利用者のご家族、地域の区長、民生児童委員、消防団、 婦人会、公民館長、主事、近隣住民のメンバーと話し合いを している。行事の計画、反省会なども行い、避難訓練、救急 法などにも参加していただいたりと、地域の協力体制の確立 にもなっている。	
			(外部評価) 事業所は開設してから13年目で、運営推進会議の開催数も 多い。管理者は会議において、事業所の運営について意見を 求めると共に、認知症の理解を地域住民に広めることにも心 を砕いている。認知症の人には特別な接し方が必要である という認識があるが、先ずはその人自体を見て、普通に付き 合ってもらうことが大切であると地域の住民に伝えるなど、 管理者は専門家の立場からではなく地域で生活する者として 語っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ご利用者や家族に関わる問題などを中心に、市町村担当者に 相談し、助言を頂いたり、面談などにも立ち会っていただく など協力関係を築くように取り組んでいる。また、月に一 度、介護相談員の方が来られ、ご利用者の状態をお伝えし たり、またアドバイスを頂いたりしている。	
			(外部評価) 事業所は地域では先輩格の事業所であり、行政との連携にも 長い積み重ねがある。現在の管理者も開設後間もなくからの 勤務であり、行政担当者の移り変わりを見ており、高齢者の 地域福祉を行政と共に担うという立場である。行政側は2市 2町の市町村合併で元の地域性がまだ残っていることから、 地の利を理解している担当者を据える配慮をしている。双方 が地域を意識した協力関係を堅固にしていることが感じられ る。	面積が広い市であり、他の事業所との連携に課題があ るの否めないが、地の利が同じで小さい集まりであ れば身近でより深い話し合いも可能と思われるため、 事業所をさらによくするためにも、市と連携して事業 所同士の情報交換を行うことを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることに より、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間の 玄関の施錠についても取り決めを行ない、統一した対応に努 めている。	
			(外部評価) 事業所では定期的な勉強会をしており、身体拘束についても 身体拘束の基準から具体的な事例まで丁寧に引き上げてい る。管理者は、職員が「ちょっと待っておいね」と言っ てしまうことに、特に注意が必要であると考えている。業務の 忙しさで順番に片付けるためではあるが、職員側の都合で利 用者の行動を制限することになるため、機会を見ては繰り返 し勉強会をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所はもちろん、ご利用者についての虐待が見過ごされることがないように言葉遣いにも配慮し、ご利用者の気持ちを尊重し心のケアにも努め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的な勉強会などは実施できていないがパンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があったり、要望があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者の事前面接から説明をはじめ、入所時には管理者・計画作成担当者・担当ケアマネージャー・ユニットリーダーから直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどし、契約に署名捺印をいただいている。契約後も面会時などにお声掛けさせていただくなどの配慮も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし必要な場合は、会議ミーティングなどで介護職員にも報告し、情報の共有に努めている。ご利用者に関しては、介護計画作成時にご要望をお聞きし介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 担当職員は、利用者の「日常生活報告書」を毎月家族等に送付しており、これが意見等を引き出す有効な手段になっている。報告書は、利用者の一カ月の出来事を手書きしているもので、印刷物には無い味わいがあり、温かさが読み手に伝わってくる。家族等は報告書で情報を得た上で面会に訪れているので、より深い話しができています。開設時からの取組みで、家族等と良好な信頼関係を築いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は諸会議・申し送りにも参加しており、毎日の日誌にも目を通し、日々の出来事を把握している。また、日常的に職員に声かけして下さり話す機会を作り、意見を聞く機会を持っている。職員一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし職員の介護の質を高めるよう努めている。 (外部評価) 管理者と介護支援専門員は、それぞれ担当ユニットに出向き、利用者の状態を把握するよう努めている。利用者の状態を確認することも重要であるが、業務を通して職員と話し合いができることも大きな目的である。会議では一方方向の話しであるが、現場では双方向で意見交換ができると、管理者は感じている。職員と共に事業所を運営する取組みであり、評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は職員の個々の生活状況を理解し、生活状況をふまえ、労働時間 給与など、各自が続けて働ける環境、条件、整備等ご利用者の生活に支障がないよう多方面に配慮している。また、資格取得には全面協力しており、取得の際には給与についても配慮していただいている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら研修案内、研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っている。希望があれば自由に申し出て研修を受けられる環境を提供している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 居宅事業所のケアマネージャーを中心に視察・見学等を行ない又、研修などで同業者との関わりを積極的に持つことで新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行いネットワークづくりなどを行なっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用者には必ず面接を行ない、本人の希望や不安な点をお聞きし説明を丁寧に行うよう心がけている。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な事をお聞きして、丁寧に説明を行うように心掛けている。面会に来ていただいた時にも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご家族の希望や、ご意見をお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階で情報収集を密に行ない、担当のケアマネジャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけではなくいろいろなサービス全体からご利用についても検討をしている。医療機関の協力も必要な場合もあり、診断書や紹介状の手配など、助言させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の日常生活を送る中で家事活動を中心に、食事時の挨拶・家事のお手伝い・掃除・畑への季節の野菜の収穫・草取りなど、役割分担し、知恵を出していただいたり、季節の行事などを教えていただいたりと、それぞれ役割を持っていただくことで、職員との一方的な関係ではなく、「和を共有する同士」の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力を、ご家族にお願いし、施設に全てを依存せず、施設とご家族が協力して、ご利用者にとって一番良い環境作りを心がけ、ご利用者とご家族との関係を断ち切らないよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、敬老会・文化祭・運動会・地方祭などの行事への参加、行きつけの美容院へ行かれるなど、遠方からの面会者などには一緒に食事をしていただいたり、遠方から帰られたご家族と一緒に外泊をされたりと、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 事業所では、利用者と共に地域の季節行事に出かけ、地元の人との交流の時間を大切にしている。出かけた場所が利用者自身の地元のことも多く、その折に馴染みの風土、馴染みの人との関係が再確認できている。また、居住地が近隣ではない利用者には、事業所が馴染みの場所になるような支援も行っている。管理者は、事業所内では見られない利用者の表情を外出先で見ることができるので、できるだけ地域行事に出かけようと努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時など井戸端会議のような形式をとり、会話は楽しいものだと言われ、皆様が感じ、「共に暮す」暮らしを意識しながら自然に関わり、協力しあえるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても、行事などのパンフレットを送付してお誘いしたり、関係機関の担当ケアマネージャーを通じ、情報をお聞きするなど経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の個人介護記録には、その日、ご本人が発言した言葉をそのまま記入し、それに対し職員がどう返答し、どう納得されたのかなど、何気ない日常会話の中に心の変化や、体の変化をつかむ材料としている。	
			(外部評価) 職員が送る日常生活報告書に、家族等から「へえ、おじいちゃんそんなことがあったんや」と言われることがある。普段から職員が利用者の思いや意向を把握しようとしているからこそ、発見できる事柄である。利用者本位の生活を提供し職員が丁寧に寄り添っていることで、利用者も自分自身が出せるのだと思う。	利用者から聞き得た話しや生活歴は介護記録に記載し、事業所内で共有し過去の介護記録についてもいつでも観られるように管理している。意思表示が困難になった利用者には、生活歴等を聞き取った記録は思いや意向を推察する際に貴重な資料となる。聞き取った貴重な記録が生かされる取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接や入所後のアセスメントを行ない、ご本人や、ご家族の面談や日常会話での情報収集、ご家族にはアンケート用紙を渡しアセスメント用紙をまとめ、サービス利用に活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるように努めている。口頭で申し送りを行ない、日誌の申し送り欄に特記している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者の状態の変化や職員が気づいた点など毎月、月初めに各ユニットでケアカンファレンスを行ない、話し合う場を設けている。ご家族には面会時にご意見をいただいたり、必要時には面談などを行っている。 (外部評価) 介護計画は職員のモニタリングを元に、管理者と計画作成担当者が立てている。入居時に「〇〇のような生活を送らせてあげたい。」と家族等から要望がある際には、利用者の身体状況を考慮しながら、なるべく要望に添えるように努めている。家族は「お任せします。」と言う場合が多いが、実際は希望を持っており、管理者はそれを引き出せるよう努めている。	介護計画の立て方に、日常業務として取り組むべき事柄と介護計画として取り組む事柄とを区別して考える視点を取り入れてはどうだろうか。また、モニタリングにデータ化できる仕組みも考えて欲しい。できた、できないだけでなく、どれくらいできたか、先月と比較してどうだったか等分析もしやすく、職員の遣り甲斐につながると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一日ご利用者がされたことをただ単に記録するのではなく、ご利用者の言葉・会話なども含めながら「気づき」を記録するように心掛けている。出勤以外の記録にも必ず目を通すことで情報を共有し、その都度話し合いよりよい介護につなげる努力をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら、柔軟な支援やサービスの多機能化「受診介助、買い物、外出等」に取り組み、その時々にも生まれるニーズに対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事（夕涼み会・避難訓練・地域の祭り、地域の文化祭、など）に地域の方々に協力をしていただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と連携しご本人やご家族の希望をとり入れ、受 診時にはご家族にも協力をお願いし、ご本人がよりよい医療 を継続して受けられるよう支援している。必要時には施設か らの情報提供や薬の受け取り、受診協力も柔軟に対応してい る。 (外部評価) 家族等に受診の同行を頼んでいる理由の一つに、家族等と利 用者の結びつきが緩まないようにする目的がある。日常を見 守っている事業所にはかかりつけ医の情報は貴重で、専門家 として直接得たい情報もあるが、二度手間になることも嫌が らず家族等との絆も大切にしている。また、利用者や家族等 が納得できる医療という面でも、利用者が選ぶかかりつけ医 体制が良いと判断している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員から日々の気づきや申し送りにて看護師への相談も あり。医療機関へつなげるきっかけとなっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者が入院の際には病院関係者にご利用者の状態や、ご 家族の状態を伝え、情報提供書をお渡ししている。日々の受 診の際にも病院関係者との情報交換なども行ないスムーズな 関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況を見ながら、重度化した場合などの対応につ いてご家族と相談できる体制を作っている。ご本人やご家族 の希望を中心に施設でのケアの限界と医療体制など十分に説 明し、職員も方針を共有しながら思いをひとつにし、チーム として安心してとり組めるよう話し合い支援が出来るように している。 (外部評価) 事業所では入居の際、本人や家族等に、口から栄養摂取が可 能であることと医療的ケアは難しいことが、ここで生活でき る条件と説明している。その後の生活の場は、管理者や運営 者等が適切な場所を家族と一緒に見つかるまで探している。 家族等は次に移るのに期限が決められている訳ではないの で、落ち着いて探すことができている。今後は、福祉職ス タッフで対応できる場合は事業所内で看取ることも考えてい るようである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、地域の方を交え、勉強会などを行ない日々訓練している。今後も専門的な講習を受けるなどして実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤、夜勤帯想定で防火訓練も実施している。地域の区長（自主防災組織のメンバー）民生委員・婦人会・消防団の方々、近隣住民にも参加していただき地域との協力体制を確認している。運営推進会議などでも地域の防災マップなどをいただき、課題にあげて話し合っている。 (外部評価) 避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防団の指導の下で隣接しているデイサービスと一緒にしている。職員は、10年前に隣接市が土砂災害に見舞われた現場を見ているため、自然と避難訓練には力が入っているようだ。地域に防災マップがあるのもそれを忘れないための取り組みであり、家族等が安心できる防災対策がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう「言葉遣い」に気をつけ、コミュニケーションをとっている。プライバシーに関しても、ことあるごとに検討している。 (外部評価) 管理者は、人格を尊重することは、その人を知ることが原点であると、認知症というフィルターを通して利用者を見ない教育に心を砕いている。ちょっと物忘れが多いだけ、ちょっと判断することが苦手なだけと理解することを大切にしている。高度に認知症の知識を積むと、利用者の人格を軽視しないかと、専門知識とは諸刃の剣であることを職員に伝えている。利用者を生活者として、また人生の先輩として敬っている取り組みと言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したり、手芸時の布選びの際には、職員が決めずにご利用者の意思で選んでいただき、自己決定を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながら、ご利用者のペースに合わせて声かけし、何かしたいことがあれば取り入れ、自己決定が難しいご利用者の場合は職員が提案するなどし、日々ゆったり過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院・理髪店があるご利用者には、一人ひとりに合わせた美容院を利用できるように、美容液等持参しているご利用者には、職員が付き添い利用していただき、その人その人に応じた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせ、負担にならないよう配慮しながら、野菜の下準備や片付け、台拭きなど、職員と一緒に会話をしながら手伝っていただいている。また、好みを聞き、献立を一緒に考え、会話も楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 食事の献立表を見ていて時間の見当識に対する配慮があることが伺えた。昼食に丼物や麺類を取り入れ外食の雰囲気を出し、一日中事業所に居る利用者が多いので、食事で時間を意識できるような配慮がある。アレルギーのある利用者が別メニューを食していたが、それを羨ましく言っている利用者に職員が寄り添って、本人が納得できるよう時間を掛けて説明していた。このような事は一度や二度ではないと思えたが、「また？」と言う顔をせず、丁寧に関わっている姿に専門性の高さが感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は午前・午後・食事中・入浴後など、できるだけ多く摂取できるよう配慮している。また、毎月体重測定を行ない、病気予防に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りながら、毎食後口腔ケアをフロアーの洗面所にて実施している。きれいに磨けているかどうか、声かけ、見守りながら清潔を保っている。夜間は義歯をポリドントにつけ洗浄している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、いつもトイレでの排泄を心がけて援助している。また尿意、便意がわからないご利用者については、個人個人の排泄パターンごとに声がけさせていただき、誘導させていただいている。失敗した時は、自尊心を傷つけないよう声かけや対応を心がけ支援している。	
			(外部評価) 職員は利用者が昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも活用している。男性の利用者が多いユニットでは、女性のトイレ誘導の声掛けには特に配慮している。知らず知らずに女性利用者の自尊心を傷つけてしまうからである。ここでも認知症と言うフィルターを掛けないケアが徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（野菜類）や水分を十分に摂取していただけるよう心がけている。体操や歩行訓練等も行っている。排便の確認がとりにくい面があり、時間的に長い場合はご本人にその都度確認している。ご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴している。ご利用者に相談しながら行事や病院受診などで入浴時間に変更になる場合もあるが、お一人お一人がゆったり気持ちよく入浴できるよう配慮している。ご本人の希望などもお聞きしている。入浴剤を入れるなどして、入浴を楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を実践している事業所は多くない中、数少ない事業所の一つである。「入ったら気持ちがいいから」とその一点で実施され、当たり前と言えそうなのだが、それを実現できることに、職員の利用者と思う気持ちの強さがある。在宅では入浴することが難しかったそうだが、昨日入居された利用者にも早速入浴を楽しんでもらっており、「入ったら気持ちがいいから」の信念を高く評価したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や習慣などご利用者のリズムに合わせ、各自自由に休める環境作りに努力している。ご利用者の中にも早く入眠される方もおり、体調に合わせて居室に誘導し、休息を促せるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からの処方箋はファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかる様に細かく記入している。薬の変化がある時は、申し送りで必ず確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないよう家事などの役割を担ってもらっている。テレビ、音楽鑑賞、手芸、工作、コーヒータウン等を取り入れ、楽しみ事、気分転換や充実した生活が送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望に応じて、買い物や近くの畑の草取りや収穫と一緒に掛けたり、地域行事や季節に合わせた外出もしている。家族との外出、外泊も出来るよう柔軟に対応している。 (外部評価) 車で遠出は年間行事で実施しているが、頻繁に実施できる訳ではないので、時間をみては散歩に出かけている。事業所の裏手は農道が山裾まで続いており、散歩には適している。利用者と職員のペアで出かけるため、職員は何回もの散歩になり事業所内の人手は減るものの、利用者の笑顔があるからと積極的に出かけているようだ。玄関や勝手口、食堂や洗面所、居室の窓は掃出しで何処からも表に出られるが、それが安心感に繋がる様で利用者は落ち着いて屋内で職員の声掛けを待っている。笑顔で外出というのはこの安心感に裏打ちされているように思う。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望をお聞きし、認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つ大切さを職員が理解した上で個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは自由に出来るよう支援しており、家族等からの電話を取り次いだり、ご利用者の誕生日や何かの記念日にご家族よりお花やプレゼントを送っていただいた時には、お礼の電話をしていただくよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掲示板に利用者の作品を季節感、生活感を出しながら掲示している。玄関を入るとトイレが一番に目に入る為、ご利用者、面会者が不快にならないようにカーテンをつけ見えないよう、常に清潔を保てるような環境になるよう配慮している。 (外部評価) 事業所の中心にゆったりとした共用空間がある。高い天井に高窓であるため面積以上の広さが感じられる。対面型カウンターキッチンのは後ろには大きな掃出し窓があり、リビングからの眺めも良い。良く考えられたデザインの共用空間である。また、リビングから直接玄関になり、その先の中庭が両ユニットを繋いでいる。中庭は双方の第二の共用空間になっている。また洗濯干場にもなっていることで生活を感じることができ、ほっとする空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の場所として、テーブルの席を一人一人決めている。一人になりたい時や、面会などの際には居室に自由に行き来出来るよう思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事の写真や作品を居室に飾り、ご利用者が好みで使いやすいように、レイアウトしている方もおられ、落ち着く空間づくりに努めている。また、家族が持って来られたお孫さんの写真も飾ったりと、いつでも見れるよう、居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。介護のことを考え、ベッドは事業所が準備している。ベッドの向きが部屋によって異なっているのは、利用者の身体状況に配慮しているためである。また、洗面設備が各部屋に設えられているので、口腔ケアだけでなく身繕いを自分の部屋で行うことができる。石鎚からの吹き下ろしがあるため床暖房にしており、細やかな配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ドアにご利用者の名前や花の写真を表示して、わかりやすくしている。食事の時の席も固定化しており、自分の場所を確立し認知症によるトラブルの軽減に努めている。ユニット内の掲示板には、その日の担当者を決めて、出来る事は一緒に行っていただいています。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成27年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で・・・」を理念に挙げているように施設と地域との交流を大切に力を入れている。毎年実施している「夕涼み会」は、はや12年がたち定着し、大勢の来客がきて参加してくださっており、地区の自治会、婦人会のボランティアのお手伝いもしていただき、毎年、施行を凝らし地域の方々としてきな交流の場になるようにしている。また秋の「地方祭」には近隣、隣地区(ご利用者様のご家族)の地域のお神輿やだんじりが時間帯を合わせて集結し訪問にきてくださいます。ご利用者様と一緒に、日頃の感謝を表す場となっております。地域の公民館活動にも参加させて頂いており、映画鑑賞会、市民運動会、文化祭には、ご利用者様の1年間の作品作りの発表が出来る場を提供していただき、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流を深めております。12年たちご利用者様も高齢化している中、ご家族にも協力を頂き共に地域の中で安心して暮らせていけるように出来ることから一つひとつ取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問すると笑顔で管理者が玄関先で迎え入れてくれた。何故か懐かしい気持ちになったのは、管理者の後ろに大根を干しているのが目に入ったからだった。洋風の外観なのだが、昔の生活がそのまま残っているようで親しみを感じる事業所である。管理者は介護の基本に「その人を見る」という考え方を据えている。ともすると認知症の専門知識が利用者を理解したつもりになせ、認知症を見て人を見ないことを危惧するからである。また、事業所では栄養は口から摂取する、専門性の高い医療的ケアは行わない等福祉施設としてケアの範囲を規定している。ここにも可能なこと、難しいこと、専門機関に移行することの分けをはっきりさせ、できることは精一杯行うという専門性の高さがある。事業所での生活基準は、利用者や家族等が入居を希望した段階で話し合いをしており、安心できる生活を提供したいという気持ちを感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
			3. たまにある		3. たまに
			4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)				
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)				
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)				
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)				
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う				
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) ユニットⅡ

記入者(管理者)

氏 名 天崎るみ

評価完了日 平成27年11月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、地域の方と接する機会を大切にし、ことあるごとにカンファレンスを行い話し合いの場を持ち、理念の意義を意識するように心がけ、話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、同じ方向にむけるよう、共有（和）を計れるよう、日々実践につなげていくよう心掛け努めています。 (外部評価) 管理者との話の中に、「気が付いたら利用者が近所の人と立ち話をしていた」「事業所の庭で近くのおばあちゃんが草をむしっていたので家のお嫁さんに連絡をした」等、利用者と近所の高齢者が日常的に交流している様子が伺える。これは、理念にある「地域と共に」を日々実践し、それが利用者だけでなく地域住民にも安心感をもたらせている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として、地域の行事や、お祭り、文化祭（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、中学生の福祉体験学習、児童生徒を守り育てる会、震災訓練など、地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の生活に組み入れ、交流に努めています。 (外部評価) 中庭に続く玄関先に切干大根が干してあった。農家の庭先の風情であり、事業所の周りの家にもたくさん見られる光景だそう。地域の風物詩を事業所でも取り入れている状態が自然で、「ご近所の方から伝授頂いた」と話す管理者は、地縁を重んじていることが分かる。事業所が土地の色に馴染んでいることから、地域との付き合いの深さが感じられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々との交流の中で、近所と一緒に散歩したり、公民館活動の参加、施設での役割、認知症の方の施設という認識を伝えていくと共に、施設の利用開放などを行っています。「出来ることから」を目標に地域の活動などにも一緒に過ごす中で様々な行動障害の症状があることを理解して頂くようにご利用者と参加しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開催し、外部の方々（利用者のご 家族、地域の区長、民生児童委員、婦人会、公民館長、近隣 住民のメンバー）と話し合い、目を返しての意見を頂き、利 用者へのサービス向上に生かしています。行事計画、反省会 なども行い、避難訓練、救急法などにも参加していただいた りと、地域の協力体制の確立にもなっています。 (外部評価) 事業所は開設してから13年目で、運営推進会議の開催数も 多い。管理者は会議において、事業所の運営について意見を 求めると共に、認知症の理解を地域住民に広めることにも心 を砕いている。認知症の人には特別な接し方が必要である という認識があるが、先ずはその人自体を見て、普通に付き 合ってもらうことが大切であると地域の住民に伝えるなど、 管理者は専門家の立場からではなく地域で生活する者として 語っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ご利用者や家族に関わる問題などを中心に、市町村担当者 に相談し、助言を頂いたり、面談などにも立ち会っていただ くなど協力関係を築くように取り組んでいます。また、月に一 度、介護相談員の方が来られ、ご利用者の状態をお伝えし たり、またアドバイスを頂いたりしています。 (外部評価) 事業所は地域では先輩格の事業所であり、行政との連携にも 長い積み重ねがある。現在の管理者も開設後間もなくからの 勤務であり、行政担当者の移り変わりを見ており、高齢者の 地域福祉を行政と共に担うという立場である。行政側は2市 2町の市町村合併で元の地域性がまだ残っていることから、 地の利を理解している担当者を据える配慮をしている。双方 が地域を意識した協力関係を堅固にしていることが感じられ る。	面積が広い市であり、他の事業所との連携に課題があ るの否めないが、地の利が同じで小さい集まりであ れば身近でより深い話し合いも可能と思われるため、 事業所をさらによくするためにも、市と連携して事業 所同士の情報交換を行うことを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることに より、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間の 玄関の施錠についても取り決めを行ない、統一した対応に努 めています。 (外部評価) 事業所では定期的な勉強会をしており、身体拘束についても 身体拘束の基準から具体的な事例まで丁寧に取り上げてい る。管理者は、職員が「ちょっと待っておいね」と言っ てしまうことに、特に注意が必要であると考えている。業務の 忙しさと順番に片付けるためではあるが、職員側の都合で利 用者の行動を制限することになるため、機会を見ては繰り返 し勉強会をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所はもちろん、ご利用者についての虐待が見過ごされることがないようにご家族や、職員の悩みを抱え込まないように勤め、日々の言葉遣いにも配慮し、ご利用者の気持ちを尊重し心のケアにも努め虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的な勉強会などは実施できていないがパンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があったり、要望があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者の事前面接から説明をはじめ、入所時には管理者・計画作成担当者・担当ケアマネジャー・ユニットリーダーから直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどし、契約に署名捺印をいただいている。契約後も面会時などにお声掛けさせていただくなどの配慮も行っています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし必要な場合は、会議ミーティングなどで職員にも報告し、情報の共有に努め統一したケアが出来るようにしている。ご利用者に関しては、介護計画作成時にご要望をお聞きし介護計画に反映させています。 (外部評価) 担当職員は、利用者の「日常生活報告書」を毎月家族等に送付しており、これが意見等を引き出す有効な手段になっている。報告書は、利用者の一カ月の出来事を手書きしているもので、印刷物には無い味わいがあり、温かさが読み手に伝わってくる。家族等は報告書で情報を得た上で面会に訪れているので、より深い話しができています。開設時からの取組みで、家族等と良好な信頼関係を築いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は諸会議・申し送りにも参加しており、毎日の日誌にも目を通し、日々の出来事を把握しています。また、日常的に職員に声かけしていただき話す機会を作り、意見を聞く機会を持っています。職員一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし職員の介護の質を高めるよう努めています。 (外部評価) 管理者と介護支援専門員は、それぞれ担当ユニットに出向き、利用者の状態を把握するよう努めている。利用者の状態を確認することも重要であるが、業務を通して職員と話し合いができることも大きな目的である。会議では一方方向の話しであるが、現場では双方向で意見交換ができると、管理者は感じている。職員と共に事業所を運営する取組みであり、評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は職員の個々の努力、実績を認め常に向上心を持って働ける環境のもと、生活状況を理解し、ふまえたうえ、労働時間 給与など、各自が続けて働ける環境、条件、整備等ご利用者の生活に支障がないよう多方面に配慮している。また、資格取得には全面協力しており、取得の際には給与についても配慮していただいています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら研修案内、研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っています。希望があれば自由に申し出て研修を受けられる環境を提供しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 居宅事業所のケアマネージャーを中心に視察・見学等を行ない又、研修などで同業者との関わりを積極的に持つことで新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行いサービスの質の向上に努めています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用者には必ず面接を行ない、本人の希望や不安な点をお聞きし説明を丁寧に行うよう心がけています。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な事をお聞きして、丁寧に説明を行うように心掛けている。面会に来ていただいた時にも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご家族の希望や、ご意見をお聞きしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階で情報収集を密に行ない、担当のケアマネジャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけではなくいろいろなサービス全体からご利用についても検討をしています。医療機関の協力も必要な場合もあり、診断書や紹介状の手配など、助言させていただいています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の日常生活を送る中で家事活動を中心に、食事時の挨拶・家事のお手伝い・掃除・畑への季節の野菜の収穫・草取りなど、役割分担し、季節の行事などを教えていただいたりと、それぞれ役割を持っていただくことで、職員との一方的な関係ではなく、「和を共有する同士」の関係を築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力を、お願いし、施設に全てを依存せず、施設とご家族が協力して、ご利用者にとって一番良い環境作りを心がけ、ご利用者とご家族との関係を断ち切らないよう配慮しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、文化祭・地方祭などの行事への参加、行きつけの美容院へ行かれるなど、遠方からの面会者などには一緒に食事をしていただいたり、遠方から帰られたご家族と一緒に外泊をされたりと、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。 (外部評価) 事業所では、利用者と共に地域の季節行事に出かけ、地元の人との交流の時間を大切にしている。出かけた場所が利用者自身の地元のことも多く、その折に馴染みの風土、馴染みの人との関係が再確認できている。また、居住地が近隣ではない利用者には、事業所が馴染みの場所になるような支援も行っている。管理者は、事業所内では見られない利用者の表情を外出先で見ることができるので、できるだけ地域行事に出かけようと努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時など井戸端会議のような形式をとり、会話は楽しいものだと言われ、皆様が感じ、「共に暮す」暮らしを意識しながら自然に関わり、協力しあえるよう努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても、関係機関の担当ケアマネジャーを通じ、情報をお聞きするなど経過の把握に努め、お互いの関係を尊厳する姿を崩さないよう関係の余韻をのこしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の記録にはご利用者の様子、発言した言葉をそのまま記録に残し、職員がどう関わったか等、何気ない日常生活の中で心身の変化をつかむようにしています。また、困難な利用者には表情やレクリエーションの中での様子を観察し、小さなことも見逃さず、変化のきざしをつかむようにしています。 (外部評価) 職員が送る日常生活報告書に、家族等から「へえ、おじいちゃんそんなことがあったんや」と言われることがある。普段から職員が利用者の思いや意向を把握しようとしているからこそ、発見できる事柄である。利用者本位の生活を提供し職員が丁寧に寄り添っていることで、利用者も自分自身が出せるのだと思う。	利用者から聞き得た話しや生活歴は介護記録に記載し、事業所内で共有し過去の介護記録についてもいつでも観られるように管理している。意思表示が困難になった利用者には、生活歴等を聞き取った記録は思いや意向を推察する際に貴重な資料となる。聞き取った貴重な記録が生かされる取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接、ご家族への聞きとり、情報の確認、入所直後のアセスメントでご本人の生活歴、サービスの利用状況の把握に努め、居宅のケアマネジャーや以前の入所施設の相談員に出来る限りの情報をいただいています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタチェック表、日誌（介護記録・排尿、排便記録）や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるように努めています。朝・夕口頭で申し送りを行ない、日誌の申し送り欄に特記し、情報を共有しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者の状態の変化や職員が気づいた点など毎月下旬に、各ユニットで職員全員参加し、ケアカンファレンスを行ない、話し合う場を設けています。モニタリングについても報告し確認している。ご家族にも参加して頂くときもあります。ご家族で参加出来ない方は事前に電話連絡や来所時の面会時に話し合いを行ないご意見をいただき、現状に即した介護計画を作成しています。 (外部評価) 介護計画は職員のモニタリングを元に、管理者と計画作成担当者が立てている。入居時に「○○のような生活を送らせてあげたい。」と家族等から要望がある際には、利用者の身体状況を考慮しながら、なるべく要望に添えるように努めている。家族は「お任せします。」と言う場合が多いが、実際は希望を持っており、管理者はそれを引き出せるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 出勤時の朝ご利用者全員に声掛けを行ないその日の様子を確認し、夜勤者の申し送りや日誌でご利用者の状態を聞く。いつもと違った事「気づき」があれば職員に確認し情報を共有し話し合いを行い記録に残し、よりよい介護につなげるよう努力をしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら、柔軟な支援やサービスの多機能化「受診介助、買い物、外出等」に取り組み、その時々にも生まれるニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事（夕涼み会・避難訓練・地域の祭り・文化祭）等、地域の方々に協力をしていただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作り、公民館の行事にもご利用者と参加し地域の方々と交流したり、地元の中学生に職場訪問に来ていただき福祉体験で説明したり、ご利用者と交流して頂いています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医と連携しご本人やご家族の希望をとり入れ、受 診時にはご家族にも協力をお願いし、ご本人がよりよい医療 を継続して受けられるよう支援しています。受診から帰られ た際には、詳しく状況を伺い、次の受診予定も確認してい ます。必要な情報提供や薬の受け取り、にも柔軟に対応して います。 (外部評価) 家族等に受診の同行を頼んでいる理由の一つに、家族等と利 用者の結びつきが緩まないようにする目的がある。日常を見 守っている事業所にはかかりつけ医の情報は貴重で、専門家 として直接得たい情報もあるが、二度手間になることも嫌が らず家族等との絆も大切にしている。また、利用者や家族等 が納得できる医療という面でも、利用者が選ぶかかりつけ医 体制が良いと判断している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員から日々の気づきや申し送りにて看護師への相談もあ り、状態の変化があった際にはすぐ見ていただき必要であれ ば医療機関へつなげるようにしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご利用者が入院の際には病院関係者にご利用者の状態や、ご 家族の状態を伝え、情報提供書をお渡しし、医療機関のソー シャルワーカーと連絡を取り、お会いしたり、電話で情報交 換なども行ないスムーズな関係作りに努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況を見ながら、重度化した場合などの対応につ いてご家族と相談できる体制を作り、方針を共有していま す。ご本人やご家族の希望を中心に施設でのケアの限界と医 療体制等と十分に説明し、職員も方針を共有しながら思いを ひとつにし、チームとして安心してとり組めるよう話し合い 支援が出来るようにしています。 (外部評価) 事業所では入居の際、本人や家族等に、口から栄養摂取が可 能であることと医療的ケアは難しいことが、ここで生活でき る条件と説明している。その後の生活の場は、管理者や運営 者等が適切な場所を家族と一緒に見つかるまで探している。 家族等は次に移るのに期限が決められている訳ではないの で、落ち着いて探すことができている。今後は、福祉職ス タッフで対応できる場合は事業所内で看取することも考えてい るようである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時は本人の安全を確認して、ケアマネージャー、管理者に連絡し指示を仰ぎ、緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、地域の方を交え、勉強会などを行ない日々訓練しています。今後も専門的な講習を受けるなどして実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤、夜勤帯想定で防火訓練を実施しています。地域の区長（自主防災組織のメンバー）民生委員・婦人会・近隣住民にも参加していただき地域との協力体制を確認しています。消防署より講評をいただき改善に取り組み、運営推進会議などでも地域の防災マップをいただき、課題にあけて話し合っています。 (外部評価) 避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防団の指導の下で隣接しているデイサービスと一緒にしている。職員は、10年前に隣接市が土砂災害に見舞われた現場を見ているため、自然と避難訓練には力が入っているようだ。地域に防災マップがあるのもそれを忘れないための取り組みであり、家族等が安心できる防災対策がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう「言葉遣い」に気をつけ、コミュニケーションをとっています。プライバシーに関しても、ことあるごとに検討しています。 (外部評価) 管理者は、人格を尊重することは、その人を知ることが原点であると、認知症というフィルターを通して利用者を見ない教育に心を砕いている。ちょっと物忘れが多いだけ、ちょっと判断することが苦手なだけと理解することを大切にしている。高度に認知症の知識を積むと、利用者の人格を軽視しないかと、専門知識とは諸刃の剣であることを職員に伝えている。利用者を生活者として、また人生の先輩として敬っている取り組みと言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したり、何事も職員が決めず、ご利用者の意思で選んでいただき、自己決定を尊重しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながら、ご利用者のペースに合わせて声かけし、何かしたいことがあれば取り入れ、自己決定が難しいご利用者の場合は職員が提案するなどし、日々ゆったり過ごせるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類の着替えの際には、できるだけご利用者に選んでいただいております。また使いなれた整髪剤や化粧水等を持ち込みいつでも使用できるようにしており、その人その人に応じた身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせ、負担にならないよう配慮しながら、食後の食器の片付けや野菜の下準備片付け、台拭きなど、職員と一緒に会話をしながら手伝っていただいております。また、好みを聞き、献立を一緒に考え、会話も楽しみながら食事をしています。	
			(外部評価) 食事の献立表を見ていて時間の見当識に対する配慮があることが伺えた。昼食に丼物や麺類を取り入れ外食の雰囲気を出し、一日中事業所に居る利用者が多いので、食事で時間を意識できるような配慮がある。アレルギーのある利用者が別メニューを食していたが、それを羨ましく言っている利用者に職員が寄り添って、本人が納得できるよう時間を掛けて説明していた。このような事は一度や二度ではないと思えたが、「また？」と言う顔をせず、丁寧に関わっている姿に専門性の高さが感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は午前・午後・食事中・入浴後など、できるだけ自由にいつでも摂取できるよう配慮しています。また、毎月体重測定を行ない、病気予防に努めています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りながら、毎食後口腔ケアをフロアーの洗面所にて実施しています。一人ひとりの状態に応じて回数を増やすといった対応をし、きれいに磨けているかどうか、声かけ、見守りながら清潔を保っています。夜間は義歯をポリデントにつけ洗浄しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、日中は出来るだけパット使用しない様、トイレでの排泄を心がけて援助しています。また尿意、便意がわからないご利用者については、個々の排泄パターンごとに声がけさせていただき、誘導させていただいています。、失敗した時は、自尊心を傷つけないよう声かけや対応を心がけ支援しています。 (外部評価) 職員は利用者が昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも活用している。男性の利用者が多いユニットでは、女性のトイレ誘導の声掛けには特に配慮している。知らず知らずに女性利用者の自尊心を傷つけてしまうからである。ここでも認知症と言うフィルターを掛けないケアが徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（野菜）を多く取り入れた献立にしている。便秘がちなご利用者には水分を多めに摂取していただくよう心がけている。体操や歩行訓練等も行っている。排便の確認がとりにくい面があるご利用者については、時間的に長い場合はご本人にその都度確認している。またご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご利用者に相談しながら行事や病院受診などで入浴時間が変更になる場合もあるが、お一人お一人がゆったり気持ちよく入浴できるよう配慮しています。ご本人の希望などもお聞きしています。季節の（しょうぶ・ゆず）などを使用した入浴も楽しんでいただいています。 (外部評価) 毎日の入浴を実践している事業所は多くない中、数少ない事業所の一つである。「入ったら気持ちがいいから」とその一点で実施され、当たり前と言えそうなのだが、それを実現できることに、職員の利用者と思う気持ちの強さがある。在宅では入浴することが難しかったそうだが、昨日入居された利用者にも早速入浴を楽しんでもらっており、「入ったら気持ちがいいから」の信念を高く評価したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や習慣などご利用者のリズムに合わせ、各自自由に休める環境作りに努力しています。ご利用者の中にも早く入眠される方もおり、体調に合わせて居室に誘導し、休息を促せるようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からの処方箋はファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかる様に医療機関ごとに、細かく記入しています。薬の変化がある時は、申し送りです必ず確認しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないよう家事などの役割を担ってもらっている。テレビ、音楽鑑賞、コーヒータイム等を取り入れ、楽しみ事、気分転換や充実した生活が送れるよう支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望に応じて、中庭の散歩や、野菜の収穫、気候が穏やかな日にはドライブや外食などで気分転換に一緒に出掛けたり、地域行事（公民館行事）映画鑑賞会や季節に合わせた外出もしています。家族との外出、外泊も出来るよう柔軟に対応しています。 (外部評価) 車で遠出は年間行事で実施しているが、頻繁に実施できる訳ではないので、時間をみては散歩に出かけている。事業所の裏手は農道が山裾まで続いており、散歩には適している。利用者と職員のペアで出かけるため、職員は何回もの散歩になり事業所内の人手は減るものの、利用者の笑顔があるからと積極的に出かけているようだ。玄関や勝手口、食堂や洗面所、居室の窓は掃出しで何処からも表に出られるが、それが安心感に繋がる様で利用者は落ち着いて屋内で職員の声掛けを待っている。笑顔で外出というのはこの安心感に裏打ちされているように思う。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望をお聞きし、認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つ大切さを職員が理解した上で個別に支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは自由に出来るよう支援しており、家族等からの電話を取り次いだり、ご利用者の誕生日や何かの記念日にご家族よりお花やプレゼントを送っていただいた時には、お礼の電話をしていただくよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関口及び室内に数箇所掲示板を設置し、ご利用者が作った作品、行事写真等を掲示し、季節感、生活感を出せるようにしています。玄関を入るとトイレが一番に目に入る為、ご利用者、面会者に不快感を与えないようにカーテンをつけ見えないよう、常に清潔に心がけています。また季節に応じ温度設定をさせて頂き、居心地よく過ごさせていただけるよう配慮しています。 (外部評価) 事業所の中心にゆったりとした共用空間がある。高い天井に高窓であるため面積以上の広さを感じられる。対面型カウンターキッチンの後ろには大きな掃出し窓があり、リビングからの眺めも良い。良く考えられたデザインの共用空間である。また、リビングから直接玄関になり、その先の中庭が両ユニットを繋いでいる。中庭は双方の第二の共用空間になっている。また洗濯干場にもなっていることで生活を感じることができ、ほっとする空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の居場所として、フローア・リビングのテーブルの席を一人一人決めています。独りになりたい時、居室にて自由に出入り出来るよう思い思いに過ごせるようにしています。面会の時はゆっくり居室で過ごしていただけるよう配慮しています。フローアのテレビも自由に見られるようにしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご利用者が自宅で大切にしていた馴染みのもの、写真や思い出の品、テレビ等、居室に持ち込まれ落ち着いて過ごせるよう、空間づくりに努めています。居室に花など生けられ楽しまれている方もいます。 (外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。介護のことを考え、ベッドは事業所が準備している。ベッドの向きが部屋によって異なっているのは、利用者の身体状況に配慮しているためである。また、洗面設備が各部屋に設えられているので、口腔ケアだけでなく身繕いを自分の部屋で行うことができる。石鎚からの吹き下ろしがあるため床暖房にしており、細やかな配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ドアにご利用者の名前や花の写真を表示して、わかりやすくしています。食事の時の席も固定化しており、自分の場所を確立し認知症によるトラブルの軽減に努めています。出来る事は職員と一緒に行っていただいています。	